

特集

幼稚園での星見の会の実施

加藤明音、伊藤信成（三重大学教育学部） 杉沢久美子（三重大学附属幼稚園）

1. はじめに

三重大学教育学部附属幼稚園では夏休みの登園日に、夜ならではの体験をしてもらう「夜の幼稚園」という活動を実施している。この取組の一環として、2006年から星見の会を開催している。星見の会の実施当初は3歳児（年少）から5歳児（年長）までの全ての園児を対象としていたが、人数が多く観望に時間がかかることに加え、年齢が低い園児に対して効果的な観望ができていないことから、数年前より5歳児のみを対象とすることにしている。一方で、一昨年度までは天候不良の際には星見の会は中止していたが、在園期間中に1回しか観望の機会がないということを考慮して、昨年度は初めて屋内でのホームスター投影による星空解説も実施した。

2. 星見の会の実施概要

星見の会は2016年7月23日に幼稚園の敷地内で実施し、前半（19:00～19:30）は遊戯室での星空解説、後半（19:30～21:00）は園庭に出て望遠鏡を使っての観察を行った。当日は学生1名、大学教員1名が2台の望遠鏡をそれぞれ担当し、月と惑星（木星・火星・土星）を観察対象とした。ただ、月に関しては天候の悪化により雲間からの観察となった。

3. 星見の会における反応

星見の会に関係した園児・保護者・幼稚園教諭・学生の反応を以下に示す。

(1) 児童の反応

土星の輪に興奮する様子や惑星の色の違いに興味を持つ園児が見受けられた。また、初めて見る望遠鏡にも興味を示していた。

(2) 保護者の反応

望遠鏡を使って天体を見るという体験は家庭では難しく、星見の会は貴重な経験の場となっており、今後もずっと継続して欲しいという声強い。

(3) 幼稚園教諭からの意見

子どもたちは実際に目に見えるものに興味や関心が湧くので、今回の経験が興味を持つきっかけになるのではないかと。保護者からの反応がとても良く、これからも続けてほしい。

(4) 学生の意見

星見の会を通して、三重大学の教育目標である4つの力（感じる力・考える力・コミュニケーション力・生きる力）を育成できた。講義等では、園児と接する機会はほとんどないため、貴重な機会を持てた。

4. 今後の課題

今回人員が少なかったことや望遠鏡を扱う技術が十分でなかったから園児の列が長くなってしまったので今後は改善していきたい。また、月や惑星といった天体が望遠鏡視野外に移動してしまった状態でも、園児が「見えた！」と肯定的な反応をする場合があったため、我々が意図した天体が観察できているか確認しながら進める必要があるといえる。